

第1学年社会科学学習指導案

日時 令和3年11月2日(火) 5校時

学級 宮古市立河南中学校 1年A組 32名

授業者 教諭 小笠原 聡

1 単元名 世界の諸地域「ヨーロッパ州」 (社会科 中学生の地理 帝国書院)

2 内容のまとめ (地理的分野) B世界の様々な地域 (2) 世界の諸地域 「ヨーロッパ州」

3 単元の目標

- (1) 世界各地で顕著化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。 【知識及び技能】
- (2) ヨーロッパ州に暮らす人々の生活をもとに、ヨーロッパ州の地域的特色を大観し理解することができる。 【知識及び理解】
- (3) ヨーロッパ州において、地域で見られる地域的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し表現することができる。 【思考力、判断力・表現力等】
- (4) ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究することができる。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元について

(1) 生徒について

- ア これまでの授業で課題解決型の授業を繰り返し行ってきた。課題設定、予想、検証、まとめの順に学習を行うことができる。
- イ 入学当初は授業中に落ち着きが見られなかった生徒たちであるが、1学年も半ばを過ぎた最近では少しずつ集中して授業に取り組めるようになってきている。また、「世界各地の人々の生活と環境」や「世界の諸地域」の学習へと進んでいくうちに、資料の読み取りに意欲的に取り組むようになってきている。
- ウ 本校では学習アンケートを行っており、どの教科においても「授業がよくわかるか」という質問に対して80%以上が肯定的回答をすることを目標としている。1学年生徒は「社会の授業がよくわかるか」という質問に対し、85%が肯定的な回答を示した。また、教科独自に行ったアンケートでは「地理の授業がよく分かるか」という質問に対し85%が肯定的な回答だった。しかし、「地理の授業が好きか」という質問への肯定的な回答は67%であり、歴史の同じ質問(78%)と比較すると落ち込みが見られた。このことから、地理的分野の学習において興味関心を引き出すための手立てや、生徒自身の問いを引き出し、意欲的に問題解決をすることができる授業づくりが必要であると分かった。

(2) 教材について

- ア 本単元は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。
- イ ヨーロッパ州の学習では、国家統合や文化の多様性に関わる問題などを主題として設定し学習し

ていくという特徴がある。

ウ ヨーロッパ州の学習では、産業、人々の生活、文化、歴史的背景などに関連付けながら、EU として統合したメリットやそれに伴う経済格差などのデメリットについて考えることで、国家間の課題や EU 特有の課題を捉えることができる教材である。

(3)指導について

- ア 導入では、ICT を活用した資料提示等の工夫をすることで、生徒の問いを引き出して課題を設定したり、解決の見通しを持たせたりすることができるようにする。
- イ 既習の知識や資料などをもとに比較したり関連付けたりしながら、生徒同士がお互いに考えを伝えあう活動を位置づけることで、ヨーロッパ州の特色を捉えることができるようにする。
- ウ ヨーロッパ州に関わる視覚的にとらえることができる資料を効果的に提示したり、思考をうながす発問に留意したりしながら指導をすることで地理的分野の学習への生徒の興味・関心を高めることができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世界各地で顕著化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ② ヨーロッパ州に暮らす人々の生活をもとに、ヨーロッパ州の地域的特色を大観し理解している。	① ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	① ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

6 指導と評価の計画 内容のまとめり 世界の様々な地域 (2)世界の諸地域「ヨーロッパ州」(6時間扱い)

※網掛けは記録に残す評価

時	学習活動	評価基準・評価方法等		
		知・技	思・判・表	態
1	ヨーロッパ州の自然環境の違いについて資料をもとに考察し、理解する。	技② 記述分析		
2	ヨーロッパ州の文化の共通性と多様性について理解し、そのうえで EU としてまとまろうとしていることをつかみ、小単元の課題を設定する。 小単元の課題：ヨーロッパの国々がまとまることでどのような良さや課題があるのか	知① 記述分析		
3 本時	EU として地域統合を進めている理由について理解し、そのあり方を日本やアジアに置き換えて自分の考えをまとめることができる。	知② 記述分析	① 記述分析	
4	イギリスを例に EU の抱える問題について理解し、今後の EU の在り方について考察する。	知① 記述分析	②	① 記述分析

5	ヨーロッパ州の農業の特色について理解し、EUとしての農業の課題について考察する。	技① 記述分析		
6	ヨーロッパの工業の特色と EU 統合後の変化について考察し、まとめる。		① 記述分析	

7 本時の指導(3時間目/全6時間)

(1)目標

- ・ヨーロッパの国々がEUとしてまとまる理由や良さについて理解することができる。【知識・技能】
- ・EUのような地域統合が日本に合うかどうかを考えることで、地域統合のメリット、デメリットについて考え、自分なりの考えを表現することができる。【思考・判断・表現】

(2)評価規準

評価の観点	B「概ね満足である」と判断される状況	支援を要する生徒への手立て
【知識・技能】	ヨーロッパの国々がEUとして地域統合に至った背景やメリットについて理解することができる。	地域統合に至る経緯について歴史や経済など、視点を確認しながら指導し理解できるよう支援する。
【思考・判断・表現】	EUの地域統合の在り方について、日本に合うかどうかを考え、良さや課題について考えを深めることができる。	EUのメリット、デメリットを具体的にあげ、日本の現状と照らし合わせながら考えさせる。

(3)研究との関わり(UDの視点)

焦点化…①資料や既習事項を生かしながら課題について焦点化する。

②課題の解決に向けてどのような内容を理解すればいいのか見通しを持たせる。

視覚化…①経済的な協力を行うために地域統合が進んだ点について、ICTを活用して指導する。

②EU統合後の人々の生活についてICTを活用した資料提示をし、メリットについて考えさせる。

③日本でも地域統合をする動きがあることを資料からつかませる。

共有化…①EUが地域統合を目指した背景とそのメリットについてまとめ、それを発表しあうことで様々な考えを共有する。

②日本がEUのように地域統合をすることが合うかどうかを考え、それぞれの考えを共有する。

(4)本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (◆評価)	UDの視点
導入 5分	1 前時の復習		
	2 課題設定 ・前時の復習やユーロを使っていることから、ヨーロッパの国々がまとまろうとしていることをつかみ、課題を設定する。	・既習したヨーロッパでは人種や言語が違うことを想起させる。	焦点化①

なぜヨーロッパの国々は1つにまとまったのか

展開 30分	<p><u>3 予想と学習の見通し</u></p> <p><考えられる生徒の予想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争を防ぐため ・経済的に協力できるから など <p><u>4 検証</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU として地域統合を進めた背景をつかむ。 ・地域統合をした際のメリットについてつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背景とメリットを理解することが課題解決につながることをつかませる。 ・ベネルクス三国から経済的な協力についてつかませる。 ・戦争を防ぐ視点からも指導する。 ・統合後の人々の生活の変化、アメリカなど大国と競争できるなどの視点から指導する。 	<p>焦点化②</p> <p>視覚化①</p> <p>視覚化②</p>
終末 15分	<p><u>5 まとめ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU として地域統合をした理由についてまとめ、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 人口も面積も小さいヨーロッパの国々は、経済的に協力できるようにEUとして1つにまとまった。これにより、アメリカなどの大国と競争することができるようになった。</p> </div> <p><u>6 発展課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・APECなどを例に、日本もアジアや太平洋諸国と協力しようとしていることをつかみ、EUのような地域統合が今の日本に合うかどうかを考える。 ・それぞれの考えを発表しあい、共有しあう。 <p><合う> ・様々な文化を共有しあえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EUのように経済的に協力し合える <p><合わない> ・日本人の仕事がなくなる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の農業などが衰退してしまう <p><u>7 振り返り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを書き、発表する。 <p><u>8 次時の予告</u></p>	<p>◆【知識・技能】</p> <p>ヨーロッパの国々がEUとして地域統合に至った背景とメリットについて理解することができる。</p> <p>◆【思考・判断・表現】</p> <p>EUの地域統合の在り方について、日本に合うかどうかを考え、良さや課題について考えを深めることができる。</p> <p>・友達から学んだこと、参考になったことを視点の1つにし、振り返りをさせる。</p>	<p>共有化①</p> <p>視覚化③</p> <p>共有化②</p>